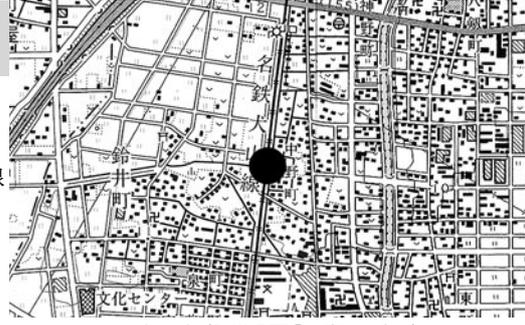


ごさんじ
御山寺遺跡

所在地 岩倉市中野町
(北緯 35 度 17 分 18 秒 東経 136 度 52 分 13 秒)
調査理由 緊急地方道路整備事業 3・3・8 一宮春日井線
調査期間 平成 18 年 5 月～ 11 月
調査面積 3,000 m²
担当者 石黒立人・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「一宮・小牧」)

調査の経過 本遺跡の発掘調査は、緊急地方道路整備事業 3・3・8 一宮春日井線に関わる工事の事前調査として、愛知県建設部都市整備課から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。平成 16 年度から名鉄犬山線の東西両隣接地から調査をはじめ、本年度が 3 年目の調査となる。本年度の調査面積は 3000 m²で、調査区は名鉄犬山線の東側で犬山街道を挟んだ地点として 06A 区～06Cb 区・06Ea 区・06Eb 区 (05Ea 区より南の地点と東の地点) と名鉄犬山線の西側で新溝用水より西の地点として 06D 区 (05A 区より西の地点) を設定して行なった。

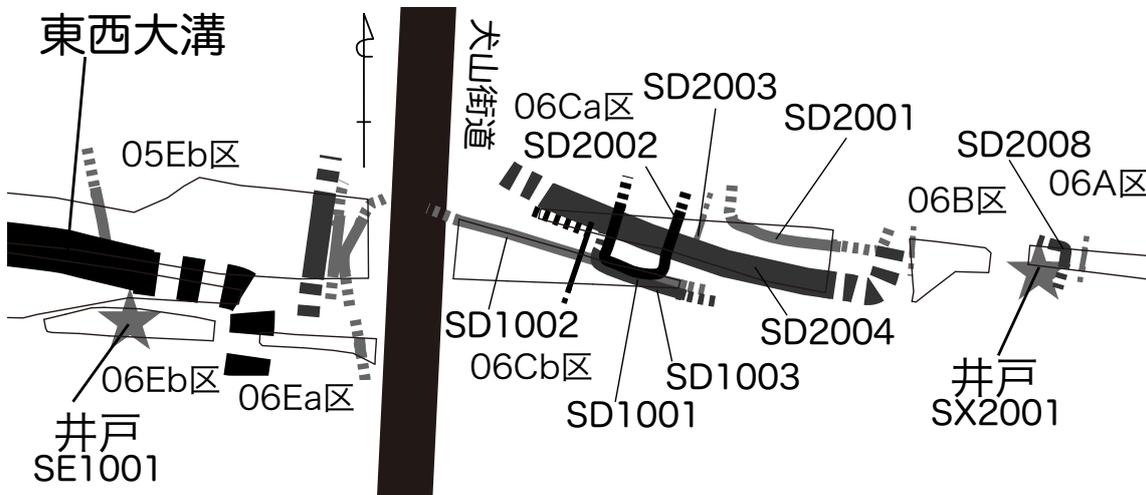
調査の概要 立地と環境 当遺跡は五条川右岸の犬山扇状地末端に位置し、遺跡および付近の標高は 11m 前後である。現在に残る地形には大きな影響はないが、地表部分の微地形は昭和 40 年代の区画整理までに微高地の高所を削り低地へ土砂を移動させた結果であり、特に礫層露出部分ではかなりの遺構が滅失していた。04A 区・05B 区ではその礫層が地表面下約 20cm で露出する箇所があり、05A 区より西に想定される地点ではこの礫層が地表面より低くなることが確認されている。この礫層が低くなる地点は木曾川から分流した旧河道であることが地籍図等からも確認できる。

古墳時代前期 本年度の調査では古墳時代前期の方墳 1 基と中世後半から戦国時代の区画溝多数、旧河道 1 条、畑遺構、江戸時代の水田遺構を検出した。以下、時代別に概観する。

名鉄犬山線の東側にある 06Cb 区で一辺約 11m の方形状にめぐる幅 1.1m～2.2m の溝 SD2001 を検出した。この溝は南西隅部にて溝が途切れており、陸橋部が確認できた。溝からは古墳時代前期 (廻間 3 式) の土器が出土した。またこの方墳の基盤層を形成する北西から南東にのびる自然流路の堆積を確認し、犬山街道を挟んで西に隣接する 05Eb 区東端に確認された弥生時代末の谷地形と対応するものと考えられる。

中世後半～戦国時代 名鉄犬山線の東側にある 06A 区～06Cb 区・06Ea 区・06Eb 区では中世後半～戦国時代の溝が東西方向に 5 条、南北方向に 4 条確認できた。

前年度までの調査においても、15 世紀末～16 世紀前半の遺物が主体に出土する東西の大溝 SD001



今年度の調査成果 (中世～江戸時代初期) S=1/1,500

に先行する南北方向の小規模な区画溝が05C区等において存在することが指摘されているが、本年度の調査では東西方向の溝に前後する南北方向の区画溝を検出できた。本年度の調査において確認できた東西方向の溝は前年度までに確認したSD001の10m～20m北側をほぼ並行する溝で、古瀬戸後期段階～大窯1期段階の瀬戸美濃産陶器が出土する15世紀末～16世紀前半の溝2条06Ca区SD2004・06Cb区SD1002とそれより以前の溝である06Ca区SD2001・06Ca区SD2003、それより以後の溝である06Cb区SD1001がある。06Ca区SD2004は遺構検出面において確認できるだけで幅3mを超える比較的大きな溝で、遺構配置の状況からは前年度までに確認されている東西の大溝SD001の北側を区画する溝として考えられ、何らかの施設が存在した可能性が高い。また06Ca区SD2001は中世後半の溝で溝の西側にて北に屈曲することが確認できており、06B区まで及んでいないことから考えると、一辺50m以内の範囲を区画していた溝である可能性が高い。同様に06Cb区SD1001も東西幅10mで06Cb区の北を区画する溝で、東側の溝は06Ca区SD2004より新しい06Ca区SD2002に対応するものと考えられる。

南北方向の溝では06A区にて確認できたSD2008は、15世紀末～16世紀前半の溝で西に屈曲しており、06A区西端から06B区を含む南西側を囲む溝であり、遺構の配置状況から考えると東西幅30m以内の区画が推定される。

よって、本年度の調査により中世後半において溝により平面方形に囲まれた一辺30m～50mの区画が複数存在することが明らかとなり、15世紀末～16世紀前半には前年度までに確認された東西大溝の北側に溝に囲まれた一辺50mを超える比較的大型の方形区画が別に存在することが明らかとなった。また江戸時代以後にも、小規模な区画が存在することが推定できる。これらの区画溝は本年度の調査区が中世後半以後において各区画の境の部分にあたることを示しており、溝から外れた部分では06A区の南西隅部や06Eb区中央部においては井戸が確認されている。居住域内部に関わる施設と考えられる。06A区SD2008より東側は中世後半の遺物を含む、溝状遺構の集積や比較的小規模な土坑の集まりが検出できた。遺物の出土が少量であることと溝状遺構の集積が土の攪拌により形成されたものである可能性が考えられることから、06A区SD2008より東側は居住域の外部分が想定され、畑地や園地が広がっていた景観が推定できる。

江戸時代

名鉄犬山線の西側にある06D区において東西方向に流れる戦国時代の旧河道跡の上に江戸時代以後と考えられる南北方向にはしる溝と5面の水田遺構を検出できた。南北方向に走る溝の多くは調査区東端に集中しており、溝の東西の展開する水田遺構の用・排水路と考えられる。水田遺構は上部の2面において幅12m前後の条里型水田の平面形態をとっているが、下面の3面の水田遺構は一辺1m～3m前後の小区画が多数検出される小区画型水田の平面形態であった。これらの水田遺構には犁による耕作溝も少数確認でき、小区画型水田の存在と犁による耕作方法が併存する可能性が高く、農法的解釈において課題が残った。また上から2面目において検出できた北北西から南南東の幅0.3m～1.0mの溝が多数確認され、埋土が上下にて検出された水田遺構に伴う耕作土とは異なる黄色細粒砂が斑土状に多く含まれる状況が観察できた。これらの溝は東に隣接する05A区においても確認されており、洪水等による砂の堆積後、耕作を再開する為に耕起した痕跡の可能性が推定された。

(蔭山誠一)



古墳時代前期の方墳（06Cb区西より）



江戸時代の水田遺構（06D区東より）